

慢性疼痛の病態理解と治療の実践 －疼痛感作の抑制に迫る－

慢性疼痛症例におけるリハビリテーションを進める上で多面的評価に基づいたアプローチが重要であることが報告されています。多面的評価とは、症例の身体機能のみでなく精神機能や社会的背景など、痛みに関連する要因について多角的視点から探ることです。また、近年では定量的感覚検査による「感作（痛みの感じやすさ）」の評価の重要性が数多く報告されています。慢性疼痛症例の訴えは多様性があり、対応は個々に必要であると思います。症例の訴えと、評価の整合性はとれているか、アプローチは正しいのか、疑問に思うことも多いと思います。

本セミナーでは、慢性疼痛治療における評価から治療まで、症例を提示し紹介します。評価は、身体機能や質問紙、感作など多角的視点から行い、問題点をどう掘り下げるか、アプローチをどのように行うかを考えていきます。臨床での疑問点を少しでも明確にできるようにわかりやすく解説します。このセミナーでは、患者さんが日頃感じている痛みが慢性疼痛患者特有の思考を発生させるため、痛みを感じさせない治療を紹介します。

- 開催日時：令和5年4月27日（木）19:00～21:10
- 講師：金原一宏（聖隷クリストファー大学）
佐久間俊輔（おまえざき痛みのクリニック）
- 参加費：2,000円
- 定員：20名程度
- 参加方法：オンライン（Zoom）
- お申込方法：ホームページよりお申し込みください。

<https://shonanries.com/>

※定員になり次第締め切ります。

- 対象：理学療法士、作業療法士、柔道整復師、あん摩マッサージ指圧師、鍼灸師など

